

# 彩雲

## 大和市自衛隊協力会新聞 第51号

発行者：谷 悟累  
 大和市深見西2-6-28 (事務局)  
 TEL：046-261-9700  
 FAX：046-264-3511  
 編集協力：厚木航空基地隊



江田島基地研修 大講堂

### 新着任指揮官紹介



航空集団司令官  
海将 眞木 信政

大和市自衛隊協力会の皆様には、平素から深いご理解と格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、佐藤前司令官（現海上自衛隊補給本部長（十条））から航空集団司令官の任を引き継ぎ、八月四日付、統合幕僚監部報道官の職から着任いたしました眞木です。

固定翼哨戒機のパイロットであります。厚木基地には若かりし頃、航空集団司令部幕僚、第五十一航空隊において勤務したのみであり、久しぶりの勤務となります。これまで、市ヶ谷等での勤務を挟みつつ、鹿屋、那覇、八戸、岩国と固定翼部隊で勤務してきましたが、我が国を取り巻く安全保障環境が変化し、海上自衛隊の活動範囲も徐々に広がっていくことを肌身で感じてきました。このような状況の中、海上航空を一手に担う航空集団司令官の任に就いたことは、誠に光栄でありますとともに、身の引き締まる重責を感じています。

航空集団は、この厚木に司令部を構え、全国に所在する七つの航空群と七つの直轄隊を指揮し、我が国周辺の海上防衛の任務を遂行するとともに、ジブチ共和国を拠点とする海賊対処活動へのP-3C及び艦載航空機の派遣等を行っております。最近では、平成二十七年年度観艦式において観閲飛行部隊として参加し、高い評価を得ました。これらの任務を確実に遂行するため、歴代司令官が掲げてこられた「精強」「即応」を方針として引き継いでいきます。また、航空集団の任務遂行を支えるのは、隊員ひとりひとりの能力とやる気であるとの認識から、隊員に「技を磨け」「挑戦」を要望し、活動領域の拡大や状況の変化の中でも、新しいことにチャレンジして自らの技を磨き、航空集団を支える礎になってもらいたいと考えております。

しかし、その隊員が成長し、そして我々がしっかりと任務を遂行できるのも、基地周辺の自治体、協団体等、地元の皆様の御支えがあつてのことであり、皆様方との礎も更に強固にしていきたいと願っております。



第4航空群首席幕僚  
1等海佐 小峯 雅登

最後にありますが、海上自衛隊航空集団及び厚木航空基地に対する皆様のご理解とご支援に重ねて感謝申し上げますとともに、大和市自衛隊協力会の今後益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして着任のご挨拶とさせていただきます。

平成二十七年八月二十一日付で第四航空群司令部首席幕僚を拝命いたしました小峯でございます。

大和市自衛隊協力会の皆様におかれましては平素から格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

皆様方が本拙文をお読みいただいている頃は既に新年を迎えられていることと拝察し、穏やかな初春をお過ごしになられること、加えて平成二十八年が良き一年となりますよう祈念しております。

とです。二つ目は、昨年末に第六十一航空隊に配備されたC-130R輸送機の運用開始に伴い、第四整備補給隊において定期整備が開始されたことです。C-130Rは硫黄島、南鳥島等への人員や物資の輸送を主任務としており、C-130Rの整備作業は第四航空群にとって重要な任務の一つでもあります。

これらの新たな任務を遂行するために厚木航空基地に勤務する隊員が丸となって勤務しております。

これからも我々は、日々の厳しい訓練に励み、いかなる事態にも対応できるよう即応体制を維持する所存です。今後とも変わらぬ皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。大和市自衛隊協力会の皆様のご発展と、会員の皆様のご健勝をお祈りしまして、着任のご挨拶とさせていただきます。



硫黄島航空基地隊司令  
1等海佐 藤木 乾

大和市自衛隊協力会の皆様には平素から格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、八月三日付で硫黄島航空基地隊司令を拝命し、海上幕僚監部防衛施設課施設企画調整官から着任しました藤木一佐です。

生まれは兵庫県（相生市）、育ちは大阪府（茨木市）ですが、八年前に神奈川県（川崎市）に自宅を構えるとともに本籍も移したので、現在は妻子（長女、長男、二男）ともども神奈川県民です。

私は、厚木航空基地での勤務経験はありませんが、航空部隊での勤務については、これまで大湊、八戸及び岩国で経験させて頂いたので、今回で四回目となります。岩国以来八年ぶりの航空部隊勤務を嬉しく思うとともにその職責の重さに身の引き締まる思いです。

さて、硫黄島は、厚木基地から南へ一二五〇キロの位置にある離島であり、西太平洋における航空運用の重要拠点であるとともに、太平洋上を飛行する航空機に緊急事態が発生した時の緊急着陸場の一つとされています。その硫黄島に所在する当隊の主な任務は、飛行場機能の維持及び硫黄島に飛来する航空機に対する様々な支援であり、特に、硫黄島において米海軍が実施するFCLP/NLP（空母艦載機による、滑走路上に設定された模擬甲板への離着陸訓練）への支援は重要な任務となっております。

また、硫黄島から東へ一〇〇キロに位置する日本最東端の島である南鳥島にも当隊から派遣隊を派出しております。南鳥島は、近年、広大な排他的経済水域の根拠となる「特定離島」の一つとして、海洋資源開発等の分野で注目を集めています。こちらにもコンパクトながら航空機の離着陸施設（もちろん海上自衛隊の施設です。）があり、南鳥島航空派遣隊はその機能維持を任務としています。

当隊隊員は、厚木航空基地に所在する第四航空群司令部の指導と支援の下、強烈な陽射しと多湿の硫黄島で、あるいは、絶海の孤島の南鳥島で、常に飛行場機能が適切に維持できるように、そして、飛来する航空機に最適なサービスが届けられるよう、日々、知恵を絞り、汗を流し、互いに協力しながら業務に励んでおります。

最後になりましたが、当隊がこのように職務に専念できるのは、大和市民衛隊協会の皆様をはじめ、地元の皆様の深いご理解と温かいご支援があつてこそ、と感謝しております。

大和市民衛隊協会の今後益々のご発展と会員の皆様一人一人のご多幸を強く祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。



第3航空隊司令  
1等海佐 平木 拓宏

大和市民衛隊協会の皆様には、平素から深いご理解と格別のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

八月四日付、第三航空隊司令を拝命し、森竹前司令からその任を引き継ぎ、東京市ヶ谷の海上幕僚幹部総務課広報室長の職から着任いたしました平木一佐です。どうぞ、よろしくお願いたします。

厚木航空基地での勤務は、平成五年に初の部隊勤務として第三航空隊に着任したのを皮切りに、以後は東京と厚木航空基地（第五十一航空隊、航空プログラム開発隊）の行き来がほとんどであり、厚木航空基地での勤務は十四年を超え、鳥取県出身ではありますが、自宅を鶴間に構え、妻と子供三人が暮らしております。

第三航空隊は、固定翼哨戒機P-3Cと、全国の航空部隊に先駆けて、この三月に導入された固定翼哨戒機P-1の二機種を同時に運用する部隊です。P-1導入後、早期戦力化を目指し、隊員が一丸となって様々な課題に挑戦しているところがあります。

P-1は日本の主要会社が開発を分担して行った、オール・ジャパン（純国産）の航空機であり、P-3Cとの大きな違いは、ターボ・プロップエンジン（プロペラ）をターボ・ファンエンジンに変更したこと、搭載システムを最新のものにしていること等があります。

当隊はこの二機種を運用して、平素から担当する海域を、三百六十五日休むことなくパトロールし、必要に応じて警戒監視活動を行い、我が国周辺における周辺事態に即応する態勢を維持しております。

最後になりますが、海上自衛隊、そして厚

木航空基地に対します皆様のご理解とご支援に、深く感謝を申し上げますとともに、大和市民衛隊協会の今後益々のご発展と、会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして着任のご挨拶とさせていただきます。



航空プログラム開発隊司令  
1等海佐 瀬戸 慶一

大和市民衛隊協会の皆様には、平素から格別の御理解と御支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成二十七年八月二十一日付で航空プログラム開発隊司令を拝命しました瀬戸でございます。第四航空群司令部首席幕僚在任中は会員皆様には様々な場面でお世話になり感謝しております。当隊は昭和五十六年に発足した厚木プログラム業務分遣隊を前身とし、平成十四年三月に開発隊群（司令部・横須賀市船越）の隷下部隊として編成されました。主な任務は、海上自衛隊が保有する哨戒機等の戦術プログラム、航空機を支援する地上施設の管制プログラムの開発・改善及び維持管理等です。ご承知のとおりコンピュータ先端技術は日



進月歩であり、着任以来、当隊の任務の重要性を実感しているところ。また、「航空プログラム開発隊」という隊の名称から、当隊は皆「研究者・学者

タイプ」の隊員が勤務していると連想されるかも知れませんが、実際は隊員のほとんどが航空機の搭乗員及び整備員から構成されており、航空部隊と同じような雰囲気の中で業務に励んでおります。これを契機に、当隊に対する理解を少しでも深めていただければ幸いです。

今後とも皆様の御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。大和市民衛隊協会の益々の御発展と会員皆様の御健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

**平成二十七年  
自衛隊観艦式**



十月十八日（日）平成二十七年自衛隊観艦式が相模湾において挙行されました。今回の観艦式には海上自衛隊の艦艇三十六隻と陸海空自衛隊からの航空機三十七機のほか、米国、オーストラリア、韓国、インド、フラ

ンスの艦艇六隻などが参加しました。同月十二日（日）、十五日（木）の二回の事前公開の後に観艦式に臨みました。これまでの観艦式では天候に恵まれないことが多かったのですが、今回は二回事前公開、観艦式の三日間とも晴天に恵まれ絶好の観艦式日和となりました。

受閲航空部隊として、指揮官機である航空集団司令官が搭乗した第五十一航空隊のP-3Cをはじめ、初参加となる第三航空隊のP-1、第六十一航空隊のC-130Rがそれぞれ厚木航空基地から



飛び立ち、観閲官である内閣総理大臣に対し受  
 閲飛行を行いました。その後の訓練展示におい  
 ては、第三航空隊のP-1がフレアを射出し、  
 観客から「おぉー」という歓声上がり、存  
 在感を示したとともに大いに「海上」を盛り上  
 げていました。

観艦式の方法として受閲艦艇が停泊し、その  
 間を観閲部隊が航行する停泊方式が世界的には  
 多いのですが、海上自衛隊の観艦式は水上艦  
 艇部隊、潜水艦部隊、航空部隊が参加し、観閲  
 部隊、受閲部隊とも航行しながら実施する難易  
 度の高い航行方式で行なわれています。波、風  
 の影響を受けながらも秒単位で正確に式典を実  
 施することのできる、海上自衛隊の実力の一端  
 を皆様にご覧いただければ幸いです

## 江田島基地研修報告

大和市自衛隊協力会  
 広報企画担当 理事 青木俊太郎



十二月  
 十一日(金)  
 ～十二月  
 (土) 当協  
 力会吉川章  
 理事以下  
 十二名の会  
 員は、広島  
 県江田島市  
 に所在する  
 海上自衛隊  
 第一術科学  
 校・幹部候  
 補生学校を  
 研修して参  
 りました。出  
 発時は、神  
 奈川県に時  
 ならぬ大雨  
 洪水警報が  
 発令される  
 中、陸路新  
 幹線で広島  
 に向かい呉  
 を経由し船  
 にて江田島  
 に到着いた  
 しました。到  
 着後は、大  
 講堂におい  
 て、第一術  
 科学学校長  
 杉本孝幸海  
 将補と幹部  
 候補生学校  
 長杉本孝幸  
 海将補の出  
 迎えを受け  
 、来賓控室  
 において旧  
 日本海軍兵  
 学校時代の  
 歴史をご説  
 明いただき  
 ました。そ  
 の後両学校  
 長、宅間秀  
 記副校長の  
 ご説明を頂  
 きながら、  
 大講堂ホー  
 ル、幹部候  
 補生学校庁  
 舎、学生館  
 などを見学  
 その他、教  
 育参考館を  
 拝見

さしてい  
 いただきま  
 した。教育  
 参考館は、  
 昭和十一年  
 に旧海軍士  
 官、財界等  
 からの寄付  
 金によって  
 建てられ、  
 赤絨毯の階  
 段を上ると  
 そこには東  
 郷平八郎元  
 帥の遺髪室  
 正面扉が現  
 れ、扉には日  
 露戦争にお  
 ける日本海  
 海戦の場面  
 が模写され  
 ておりました。  
 明治・大正  
 ・昭和・平  
 成と国防を  
 担う様々な  
 幹部を育成  
 し続けた歴  
 史の中で、  
 昭和二十七  
 年に海上自  
 衛隊発足と  
 いう経過を  
 たどり今日  
 に至ります  
 。その継承  
 は、確実に  
 学生へ伝わ  
 り、現在も  
 自ら消灯前  
 に五省を登  
 りその日の  
 反省を行っ  
 ているとの  
 事です。外  
 に出るから  
 は、バスに  
 て戦艦大和  
 の主砲、特  
 殊船舶航艇  
 、戦艦陸奥  
 の四番主砲  
 、多くの卒  
 業生が巣立  
 って行かれ  
 た表棧橋、  
 生徒資料館  
 を見学し、  
 初日の研修  
 を終了しま  
 した。翌日は、  
 呉の大和ミ  
 ュージアム  
 を見学、入  
 館するとそ  
 こには、十  
 分の一サイ  
 ズの戦艦大  
 和が展示さ  
 れており、  
 一同唖然と  
 なりました  
 。その後、隣  
 接している  
 海上自衛隊  
 「鉄のクジ  
 ラ館」を見  
 学し、すべ  
 ての日程を  
 終了いたし  
 ました。こ  
 の度の研修  
 にあたり、  
 大変お忙し  
 いにもかか  
 わらず快く  
 お受けいた  
 だきました  
 淵之学校長  
 、杉本学  
 校長、広報  
 係長の田中  
 一尉をはじ  
 め関係各位  
 の皆様にお  
 心より感謝  
 を申し上げます  
 。今回の研  
 修で得られ  
 た事につき  
 ましては、  
 多くの市民  
 の皆様に広  
 く広報して  
 まいります



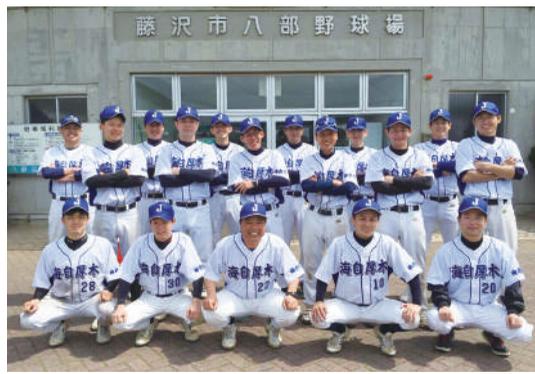
「厚木野球部の紹介」  
 初めまして、「彩雲」への記事投稿を心待ちに  
 していた厚木野球部です。  
 今回が初投稿となりますので、貴重なこの機  
 会に野球部の紹介をさせていただきます。  
 さて、WBS Cにおける日本代表の健闘に盛  
 り上がった方も多いと思います。日本の野球人  
 口はプロから草野球まで数多であり、読者の皆  
 様にとっても野球は身近なスポーツであると思  
 います。  
 もちろん自衛官にも野球好きは多く、厚木基  
 地内の野球好きが集まって結成されたのが厚木  
 野球部です。  
 部員数は約三十名で、選手年齢は十八〜四十五  
 歳と幅広く、全員が現役です。  
 各選手の野球経験も甲子園経験者から未経験  
 者まで幅広く、米軍の剛腕投手が所属し、話題  
 になった時期もありました。  
 「活動内容と活動場所」  
 厚木野球部は、「綾瀬市野球協会Aクラス」、「全  
 国官公庁野球連盟神奈川支部」及び「私設さわ  
 やかりリーグ」に参加しております。  
 綾瀬市野球協会は四月〜十二月にかけて開催さ  
 れ、使用球場は綾瀬市「ゆとりの森スポーツ公園」、  
 「光綾公園」と基地近辺で活動しております。  
 また、官公庁野球連盟は四月に神奈川県内大型  
 球場で開催され、県内唯一の自衛隊チームとして  
 出場しております。海上自衛隊の名を背負う我々  
 にとっては公務  
 員同士の試合で  
 あり、極めて重  
 要な大会です。  
 さわやかリー  
 グは東京都及び  
 神奈川県の間  
 チーム(大学生  
 ・会社員)十四  
 チームが参加す  
 るリーグであり、  
 絶好の広報機会  
 として参加して

## 厚木野球部活動状況

十一月十一日、厚木航空基地体育館において、  
 平成二十七年厚木航空基地地球技大会(バレー  
 ボール大会)を開催しました。  
 本大会は、海上自衛隊厚木航空基地所在部隊  
 から六チーム、さらに在厚木米海軍代表二チ  
 ムを含めた八チームが参加し、日頃の訓練の成  
 果とチームワークを競い、熱戦が繰り広げまし  
 た。競技は八個チームでのトーナメント制で、  
 四十歳以上または女性いづれかが、常時コート  
 に出場していなければならぬというルールで  
 行いました。  
 試合は白熱したものと準決勝の、『第三  
 航空隊』と『厚木航空基地隊』は、最終セット  
 にもつれ込みましたが、『第三航空隊』が『厚  
 木航空基地隊』の勢いを辛うじて抑えて決勝戦  
 に進みました。三位決定戦は、『厚木航空基地  
 隊』と前  
 回大会優  
 勝の『第  
 五十一航  
 空隊』が  
 行いまし  
 た。『厚  
 木航空基  
 地隊』は  
 第一セッ  
 トを取ら  
 れたもの  
 の、第二  
 セットを  
 取り、さ  
 らには第  
 三セット

## 厚木航空基地地球技大会

このように厚木野球部は「海自厚木」の文字を  
 ユニホームの胸に、その名に恥じぬよう年間約  
 三十試合に臨んでおります。これは皆様からのご  
 支援の賜物であり、部員一同感謝しております。  
 ホームページやFace Bookも常時更新  
 しておりますので、是非試合観戦にいらしてみ  
 て下さい。





### サンデーブランチ

も大逆転し勝利をつかみ取りました。決勝戦は、『第四整備補給隊』と『第三航空隊』が行い、第三航空隊も健闘しましたが、圧倒的な強さで第四整備補給隊が勝利し、昨年度のサッカー大会に引き続き優勝しました。

優勝した第四整備補給隊はもちろん、参加した各チームも選手一人一人の技量は極めて高く、またチームワークも良く、日頃の訓練成果を遺憾なく発揮しました。

また、各チームは応援を含め一丸となって試合に臨み、白熱した大会となり、厚木航空基地のより活性化及び隊員の団結を強固なものにすることができました。

十月十一日（日）に厚木基地内米軍施設の新しくオープンした「レストラントロロジー」にてサンデーブランチのイベントを開催いたしました！二十名の参加でした！皆さん、シャンパンを片手にシェフ一押しのレストラン一杯に食後は、隣のフードコートにおいてアメリカの雰囲気を楽しんでいました。

### ゴルフ大会



十月十六日（金）に厚木基地内米軍施設のゴルフ場にて当協会ゴルフ大会を開催いたしました。十五名の参加でした。食事は、レストランのナインティーンホールにおいて、皆さんポリウムたつぷりのクラブサンドイッチを美味しくいただきました。

### 上曹会活動状況



「阿波踊り・リヤカー隊大活躍」  
七月二十五日（土）、二十六日（日）「第三十九回神奈川大和阿波踊り」が開催され、海上自衛隊厚木基地からは第四航空群司令を連長に「ちどり連」を結成し参加しました。また、徳島航空基地の「かもめ連」と硫黄島航空基地の「鳥ちどり連」も加え米海軍からの参加者を含め総勢約一二〇名が今年も大和市の夜をより熱く盛り上げました。また、翌週の八月一日（土）、二日（日）には、第二十四回東林間サマーわぁーニバルが開催され、「ちどり連」が参加しました。

美しくかつ力強く踊る隊員は花形ですが、もちろん彼らは頼もしい裏方に支えられています。それが厚木基地上級海曹会が主体となつて

編成する「リヤカー隊」です。その仕事は踊り手達を補佐すべく先見的に活動し、具体的には飲料水やおにぎり等の提供や踊り手の体の手当ての補佐等を行なうことです。

いずれの開催日の当日は、夏の一番暑い盛りその日に集合し、飲料水や器材を準備しました。その後、連ごとに人員と器材を配分し、準備を整え出発しましたが、すでに出発前から誰もが汗だくになっていました。

それぞれの連が踊りの出発位置に到着した時には西の空からまだ夏の太陽が会場をじりじりと照りつけていました。踊り手達の荷物を預かり、熱中症予防のために給水支援を行い、そしていよいよ連の踊り始めとなりました。リヤカー隊は各連の後に続き短い休憩の合間に給水支援、壊れた下駄の交換、血マメの手当てなどを行いながら踊りをサポートしました。

この活動をとおり、普段ではなかなか経験できない一般の方々と身近に触れ合うことができ、また踊り手として参加した隊員共々貴重な経験と有意義な時間を過ごすことができました。これからも踊り手のパフォーマンスを最大限に発揮してもらいたため、厚木基地上曹会はりやカーに荷物と皆様の激励を乗せて阿波踊りを支援して参ります。



### 第1回海上自衛隊フットサル大会

平成二十七年九月十五日、千葉県下総航空基地に近い鎌ヶ谷市民体育館において第一回海上自衛隊フットサル大会が開催されました。

厚木基地チームは、関東社会人サッカーリーグ（第二部）の強豪チームである厚木マーカーカス所属の隊員を中心とした高いレベルのチームで参加しました。予想以上の接戦に隊員の応援にも力が入り、

厚木基地の大型バスで会場にのりこんだ約四十名の大応援団は声を枯らして声援を送っていました。

決勝戦では「佐世保Aチーム（おうみ・はまな・あまくさ・佐指隊）」と対戦し、序盤は一一と拮抗した展開になったものの、中盤は順調に得点を重ね五一一で見事勝利し、第一回大会優勝の栄冠を獲得しました。



### 編集後記



### 大和市自衛隊協力会 公式ホームページ

自衛隊員様に日頃の労をねぎらう場を提供できるよう、当協力会会員の飲食店をご案内しております！  
スマートフォンでもご利用頂けます！

大和市 自衛隊 検索

<http://yamatoshi-jieitai-kyouryokukai.com/>